關西大學新報

発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話 堂川局2072番
発行人
江村淳三
(実価一部十円)

学部長は勧告を否定

暴力事件 真相調査を約束

二部学友会が学校当局関係者および外部に公開質問状を送ったことによって教授暴行事件と沢村教授に対する辞職勧告問題は拡大され問題の根本的な解決が望まれる折から、学校側の提案によって一、二部学友会代表、新聞部と学校側との懇談会がもたれた。その席上学校側から沢村問題については、教授会は開かれておらず、同教授への辞職勧告はなかったという中川経済学部長の弁で全面的に否定された。また十一月の教授暴行事件は学長が調査にあたるということだけに問題はとどまり、これに対して二部学友会は再度公開質問状を提出するとの態度で別れた。

十七日午後六時四十八分から開かれた沢村教授問題の質問会は運営委員会の席で行われ、学校当局側から岩崎学長、中川経済学部長、田辺学生部長の西村と久井事務局事務部長出席、学生側から二部学友会神戸義彦委員長、二部学友会新聞部委員長らをはじめとする学友会関係者と二部新聞会、新聞部が参加した。

まず学長、学生部長から沢村教授と二部学友会が話し合った内容を発表せよと要望があり、この問題に関して二部新聞会と新聞部に対してある記事から話があったというのが発表のニュース・ソースについての質問があった。

これに対して二部新聞会はニュース・ソースであるから、これについてはいえないと答えた。また新聞報道外(無断)についてはこの場合は議長である学部から受けたと聞らかにした。

これについて学長から、かりに言った記事があれば、どの部長の確信もっていたものかも調査したいと述べた。

また、さる十日に開かれた経済学部教授会について、中川経済学部長は、新聞等外にかかれていないと答えこれについて学長からも学部の知らない教授会は開かれることはないと答えし、もしなんらかの形で会もたれていたら、これは無効であるとして、当然沢村教授に対する辞職勧告をした部長はないと発表した。

つづいて学友会から出された質問状と公開質問状について話し合いがなされ、質問状第八項にあげられている中川経済学部教授の「大学を破壊するような勧告を行なった部長……」といったことが事実であるのかとの熱有部の答問に対して、中川教授はそのような勧告を行った部長はないとこれも否定した。

また第四項の教授の発言についても中川教授は「このようなことはいえない」と答え、この結果、公開質問状にあげられた沢村教授辞職勧告問題は全面的に否定された。また十一月の教授暴行事件について学長は、もしこのような暴行事件があるなら、M教授の行動は非常に重大であるから、この点については徹底的に事件を調査したいとのべた。

人事委提訴は事実 その後に取下げる

竹沢人事委員の話

沢村教授への辞職勧告、それに対する二部教授の人事委員会への提訴問題については、意見の食い違いがみられるが、これに関して竹沢人事委員(六阪商業教授)は教授会の勧告がなかったとの事実を強調し、これを撤回するよう、辞職勧告をしたが、沢村教授は十四日正午、本学人事委員会へこれに対し審査申請書を提出したというのもので、当夜行われた会議では、これを重視し、寛容の態度を行うことを決議した。つづいて会議はこの席上で沢村部長に出された昨年十一月の元学部長の暴行事件に対しても調査を進めることを決めた。なお、この二事件に対して学友会では学園民主化のための闘争のことを申し合わせた。

十四日に号外を発行

十四日に号外を発行、十三日夜、明日の沢村教授への暴行事件に対して本紙では十四日夕号外を発行した。

小学校設置へ

この問題が長く久井事務局長から説明、質問があり、その席上、沢村教授問題、M教授暴行事件の二事件追求のために経済学部教授会並びに学長、理事会、評議員会に対して趣意書をもって、断にまかせる、理性は自分の口から語る機会にないと思って、と一切語らなかった。

二十日に総務委員会

真相究明に緊張活動開始

M教授の暴行事件と沢村教授問題をとりあげ、その真相の究明に一部議員が積極的な活動を行っているが、評議員会としては今年組織的な活動に移すため、総務委員会がこの活動をとりあげることを決め、同委員会は二日、その第一段階として、二十日に教授委員会が開かれることになった。

なお二十五日には臨時評議員会を開くことが予定されている。

同友会も会合開く

二部学友会の先輩で構成されている同友会では十八日午後六時から有志が集って今回の事件について話し合った。

評議員会で究明か

M教授の暴行事件

人その後のできごとで、有田専任講師は今その無抵抗で、逃げるところをさらに後頭の殴りを受けている。この暴行はこの暴行教授の研究室に処せられていたが、これは沢村教授からの比較し、M教授には暴行事件からの研究裏に処せられていたが、これはこのほか沢村教授の問題と同様に、学部長の暴行事件の二重の迫害であるとの発表があり判明したのである。

なおこの問題をとりあげた二部評議員会は早速有田講師に真相を聞くとともに、事件の真相の理由で同部評議員会議長に届出て、真相の究明に乗り出すことになった。一方、二部学友会でも沢村教授辞職勧告問題とともに学友会における学園民主化の二重の運動として取り上げることになった。

この事件についてM教授は十八日、学長が真相を調査するというのであるから、学園民主化の運動として取り上げていくつもりである。

ニュークなものとしての問題点を発展させなければ、この問題は、日本の理工教育において、この問題の学工学部のしめる地位は大きいものとなるだろう。そのために大学は最大の努力を払う。

田中晋輔博士の教授陣容決る

工学部の教授陣長に

さる一月五日工部学部において、工学部総務委員会の総務会議が開かれ、来年度からのいよいよ発足の運びとなったことについての挨拶が学長からあったのち懇談がなされた。

また田中晋輔氏を新たに工学部に招いて教授陣を決定し教授陣容が出席して、来年の教授会が開かれ提案が語られた。なお文部省に提出された工学部設置趣意書に対する態度は、今月末までに正式に下ることになっている。

三十五年度から発足する工学部長には、現在既の各種教授の推薦にあり、本学では三十五年度から機械工学科の主任工学を担当する田中晋輔理学博士が、また、部長代理には、大阪府工学博士がそれぞれ内定している。

専門委員担当教授は次の通り。

田中晋輔(理博)大田勝一(工博)柳瀬重男(工博)菅原雄(工博)柳瀬重男(工博)菅原雄(工博)西田春興(工博)桑原道(工博)七里義雄(工博)西本亨(工博)橋本達哉(工博)小川雄弥(工博)上田惟恒(工博)岡田新太郎(工博)岡田新太郎(工博)沢村宏(工博)榛葉久吾(工博)

以上十六名に加えて、助教授兼任講師十九名のほか経済学部の矢口孝次郎教授の一科目担当する。

工学部本学医学部薬学人員は機械工学、電気工学、化学工学、金属工学の各科八名で、講師教授は三月八日、九日の両日、天六学舎で行われる。試験科目は英語、社会、数学、物理、化学が加えられている。

なお工学部の総務は天六学舎でおこなわれるが新たに工学部学舎と第二年度には工学部は千里山へ移転する。

岩崎学長挨拶

関西大学の七十余年の歴史の中で昭和三十三年は飛躍の年に当る。理工科系の工学部を作る決心をしたのは、他の私立大学は工科を持っているから当方も創るといったの発表に考えに基づいて創設したものである。

この事件について M教授は十八日、学長が真相を調査するというのであるから、学園民主化の二重の運動として取り上げていくつもりであるとのことである。

声明、質問状(公開)出さる

十五日に教授、評議員などへ

十五日本学学友会議室で強硬要求委員会が開かれたが、その席上沢村教授辞職勧告、M教授暴行事件追求のために経済学部学生代表による「両事件調査研究会」が名園の経済学部学生代表を招いて、学生代表は、学内の自治を育成しようとする高度文、およびM教授暴行事件追求の二項目を決定、直ちに二五三通を作成発行した。

声明文は四項目にわたって述べられ、七十有余年の学園の歴史と伝統を誇りとしてきたが、今回の事件は学園の七十余年の伝統と歴史と傷をかい滅させるに充分な要素を含むものであるとして

①沢村教授辞任強要の後への問題として「教授会」の不適当な使用数のひとつせり(剛)(剛)にある

②教授内容、使用教材の不適当

③二十日学生に関係のない「教授会」という前提を含めて「経済学部長会議」が開かれ、「出席」は教授会の見解を含めて「教授会」に出席されたとの報道

④沢村教授辞任問題の経過

⑤学生代表に対する国際文化学部教授会の処置は大学の良識を疑わしめ、憲法に謳われた「学問の自由」を無視するものである。

⑥沢村教授を信頼し講義を受けて来た学生は学問に深刻な影響を受けているが、教授の解決に対して、いかなる見解の良識が表に出るか、興味あることだ。

⑦沢村教授辞任問題は、教授陣は、学園の問題に関して、「教授会」の決定を受けて、学園の中から次の事項がかつて「教授会」の決定を受けて、学園の中から次の事項がかつて「教授会」の決定を受けて、学園の中から次の事項がかつて

文芸

書読

合理主義の精神をめぐる…

経済学部教授　沢村栄治

西谷啓治博士はかつて、その外遊談の一エピソードを通じ、次のような感想をのべていられます。すなわち、氏がベルリン滞在中の下宿先の主婦が「私にポタム昆物を勧め……その後に出入する温厚な労働者を、客内に加ってくれた……彼で彼がつくと、彼女にはふだん世話になっているその労働者に感謝の意味で、彼自身もまだて言いたいのポタム昆物の機会を、私の親用で彼に与えてやるという意図が同時にあったのである。その際、彼女が私に対しても心から親切に取計ったということは疑いない。また、彼の同伴が彼女と彼と私と三人共に好都合なことであったから、彼女の取計いが全く合理的であり、且つ適宜であったことも勿論である。それは三人に共通的にたらものとして、客観的な合理性をもつ計いであった。それ故、彼女は自己の利益を中心としたのではなく、私の利益を毫も傷つけず、むしろ私の利益となるようにも考えたのであり、その限りその処置は道徳的な理性に適合し、彼女に得る良心の咎を与えることはなかろう。それは当事者のすべてにとっていうことは、彼の抱く考えを率直に、あるいは峰々に表明したものに過ぎない。再び紀元節を復活しようという自民党の考え方なども、もちろん関連しているとも、もちろん関連しているので、こんなヒン曲った考えをもったものがいたのでは、教育の中立性などとは、一体誰がいい出した言葉だったろうかと、いよいよその本質に思いいたって深察させざるを得ない。こんな時代の文部大臣も、だんだん質が落ちてきているが、松永文相などはもっともクラスの低い方である。もちろん文相自体の意思がどれほど働いているかはわからないけれど昨年の大ニュースとなった勤務評定問題の機会を、私の親用で彼に与えてやるという意図が同時にあったのである。その際、彼女が私に対しても心から親切に取計ったということは疑いない。また、彼の同伴が彼女と彼と私と三人共に好都合なことであったから、彼女の取計いが全く合理的であり、且つ適宜であったことも勿論である。それは三人に共通的にたらものとして、客観的な合理性をもつ計いであった。それ故、彼女は自己の利益を中心としたのではなく、私の利益を毫も傷つけず、むしろ私の利益となるようにも考えたのであり、その限りその処置は道徳的な理性に適合し、彼女に得る良心の咎を与えることはなかろう。それは当事者のすべてにとっていうことは、彼の抱く考えを率直に、あるいは峰々に表明したものに過ぎない。再び紀元節を復活しようという自民党の考え方なども、もちろん関連しているとも、もちろん関連しているので、こんなヒン曲った考えをもったものがいたのでは、教育の中立性などとは、一体誰がいい出した言葉だったろうかと、いよいよその本質に思いいたって深察させざるを得ない。こんな時代の文部大臣も、だんだん質が落ちてきているが、松永文相などはもっともクラスの低い方である。もちろん文相自体の意思がどれほど働いているかはわからないけれど昨年の大ニュースとなった勤務評定問題の機会を、私の親用で彼に与えてやるという意図が同時にあったのである。その際、彼女が私に対しても心から親切に取計ったということは疑いない。また、彼の同伴が彼女と彼と私と三人共に好都合なことであったから、彼女の取計いが全く合理的であり、且つ適宜であったことも勿論である。それは三人に共通的にたらものとして、客観的な合理性をもつ計いであった。それ故、彼女は自己の利益を中心としたのではなく、私の利益を毫も傷つけず、むしろ私の利益となるようにも考えたのであり、その限りその処置は道徳的な理性に適合し、彼女に得る良心の咎を与えることはなかろう。それは当事者のすべてにとっていうことは、

時評

松永文相の頭

文学部教授　金戸嘉七

この頃、文部大臣が、どれだけ当時の文相に適任されているのであろうか。彼の考え方から洞察して、人文と理工系の比率を失っていることは明らかであり、それが一面において高職上の均衡を失わせていることは事実である。

たとえば、伊勢神宮崇敬とは全く関係のない出来事であるが、この頃、文部大臣が東京都知事にでもなったら、都民のためにも不幸であるが、さらに、教育行政をやられるのは、誠に不幸なことである。

ところが伊勢神宮崇敬とは全く関係のない出来事であるが、この文相のいい出したことに、科学振興というのがある。無論、研究振興というのがあるが、これが必要であることは、誰しも認めるであろう。わが国の大学の構成からみて、人文と理工系の比率を失っていることは明らかであり、それが一面において高職上の均衡を失わせていることは事実である。

たとえば、科学振興はもとより必要である。ソ連に遅れをとったアメリカも、いまや科学振興は流行言葉とまでいわれている。しかし日本の科学振興はその一環をなすにすぎない。

科学の振興はもとより必要であるが、それは、ただ、研究振興は流行言葉とまでいわれている。しかし日本の科学振興はその一環をなすにすぎない。

科学の振興はもとより必要である、ソ連に遅れをとったアメリカも、いまや科学